

原 強 プ 第 3 7 号  
平成 2 2 年 1 2 月 2 0 日

島 根 県 知 事 溝 口 善 兵 衛 様

中国電力株式会社  
取締役副社長  
原子力強化プロジェクト長  
苅 田 知 英

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する  
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成 2 2 年 1 2 月 2 日に開催された，第 3 回原子力安全文化有識者会議の議事概要  
について，平成 2 2 年 3 月 3 0 日付け消防第 2 7 3 8 号および平成 2 2 年 1 0 月 1 9  
日付け消防第 1 0 5 4 号の申し入れに基づき，添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第 3 回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

以上

## 第3回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

- 開催日時 平成22年12月2日(木) 14時00分～16時40分
- 開催場所 ホテル白鳥(島根県松江市千鳥町20)
- 出席者 [地元委員] 浅沼委員, 石原委員, 亀城委員, 曾我部委員, 前田委員, 三好委員  
[一般委員] 宇於崎委員, 中谷内委員, 増田委員  
[社内委員] 苅田原子力強化プロジェクト長(幹事), 松井取締役副社長,  
清水常務取締役

## ○ 議事概要

## 1. 開催挨拶

苅田原子力強化プロジェクト長から、12月末の島根原子力発電所2号機の営業運転再開に向けて、本日(12/2)原子炉を起動したこと、二度と同じ問題を引き起こさないよう安全確保を最優先で取り組むことを説明すると共に、再発防止対策の進捗状況や、安全文化醸成施策の有効性評価についても説明するので、忌憚のない意見や提言をいただくようお願いした。

## 2. 出席委員の確認

事務局より参加委員の確認および首藤委員、樋口委員の欠席を案内した。

## 3. 議事

資料に基づき、議題1(再発防止対策他の進捗状況について)、議題2(第2回有識者会議等の意見の反映状況について)および議題3(原子力安全文化醸成施策について)を説明した。

主な意見は、以下のとおり。

## (最近の事象について)

- ・先般報道された原子炉格納容器漏えい率検査の延期の件は、本当に安全文化が醸成されつつあるのか疑問を持った。
- ・頑張っていると思うが、二つの事象(燃料装荷作業中における中性子源領域計装の指示不良および原子炉格納容器漏えい率検査の延期)からは「(これまでの中国電力の説明は)言葉だけか」という意見も聞くし、自分自身もそう思う。
- ・やはり「またか」という残念な思い。しかしながら、残念に思うのは信頼と期待があるからであり、今後、我々の期待に背かないよう切にお願いしたい。
- ・(原子炉格納容器漏えい率検査の件の本質は、本日の)説明を聞けば分かるが、聞かなければ分からないというのは非常によくない。よりコンパクトで分かりやすい説明をすることを心がける必要がある。また、新聞社等マスコミに事実を正しく報道してもらうことが大切。新聞によって報道内容が違わないようにされたい。
- ・専門家には理解できても、一般の人が「またか」と思うのは事実。その意味で一般の人に分かりやすく説明することが大事。

### (情報発信について)

- ・(個々の事象を正しく理解してもらうのには)説明会を開催するのが一番良いが、現実的には難しい。せめて報道されたことはホームページ上でも情報公開し、調べたい人には調べられる手段を提供した方がよい。また、一般の市民にデータだけを伝えても何も伝わらない。メッセージ・意図を明確にした上で、その裏づけとしてデータを出すようにする。不適合件数も増えるとドキッとするとする。不適合件数が増えているのは、取り上げる対象範囲の変更による部分が大きく危ないという意味ではないことを、もっと明確に書いた方がよい。
- ・「またか」と言われてもひるまずに、不適合情報は出し続けることが必要。
- ・ホームページを開いても専門的でよくわからない。今回の質疑では懇切丁寧な説明をされるが、それに図を入れて、ホームページや新聞広告で解説をしていく方が、皆さんの理解は得られると思う。
- ・新聞広告等での情報発信にあたっては、一般の市民の感想も聞いて有効になるよう工夫されたい。ホームページも文字ばかりで読んでもらおうという意識がない。一般市民、原子力に詳しくない人に説明する視点が必要。
- ・原子力の専門知識がない一般の市民には「頑張っているのか、いないのか」「応援できるか、できないか」しか分からない。地域が原子力発電所を「宝」「誇り」と思えるよう、まずは社員自身がそう思えるような取り組みが必要。広告にも、もっと「人」を取り上げて頑張っている様子を出してはどうか。
- ・情報発信をもっと丁寧にしていかないと勘違いされる。例えば今年8月から不適合の範囲を広げ、小さいことでも報告しようという意識も高まったために件数が急増しているが、具体的説明がないと悪くなったような印象を受けてしまう。
- ・良い取り組みは、表彰制度で表彰していくのが良い。また、新聞広告等の情報発信については、中国電力には陸上部という陸上界ひいては全国区の「宝」があるのだから、彼らを起用して社員の一人ひとりが「宝」というイメージを訴求してはどうか。

### (他社事例を受けて)

- ・他社でも、点検周期超えの機器があったとのこと。入力ミスや点検周期の設定の仕方が曖昧であったこと等が原因と聞いており、点検周期にある程度裕度を持たせておくことが必要ではないか。

### (原子力安全文化について)

- ・安全文化には秩序の確保が必要。秩序は関係者が切磋琢磨して作っていくものであり、一つひとつの事象について当事者が腹の底まで理解して共有することが必要。
- ・形としての風化防止モニュメントを作成するとなっているが、本当に意味があるのは、心の中に作るモニュメント。真に社員の意識改革をする方向に持って行ってほしい。職業人として「お客さまに質の高いサービスや安全を提供する」という意識がマンネリ化していないか。お客さまに電気を使っただけで給料をもらっているという意識が大切。

- ・発電所ロビーに掲示してある決意（グループごとの行動基準）を読んで感銘を受けた。
- ・安全文化醸成を施策で創るのは難しいし評価は更に難しい。アンケートの結果の数値そのものに意味はないが、アンケートを実施することで、回答するためには資料・通知文書等を読まなければいけない。それにより、何に価値を置いているかを社員に再認識してもらえるとという価値がある。
- ・安全文化は長い目で評価が必要。大切なことは地道な活動をどれだけ続けられるか。

#### **（業務量と発電所員負担の軽減について）**

- ・マニュアルの改訂で、社員がこれを見る負担も相当なものになっていないか。がちがちに現場を縛った結果が、先般の二つの事象（燃料装荷作業中における中性子源領域計装の指示不良および原子炉格納容器漏えい率検査の延期）に繋がったのではないかとも思う。現場が萎縮しない配慮が欲しい。
- ・発電所員が、何を悩み、何を思い、何を要望しているかを把握して対応することが大切。
- ・業務プロセスの見直しだけで大きな改善効果を得るのは難しい。業務の廃止や整理も視野に入れることが必要。不適合管理プロセスについても、できるだけ手間を省き、使い勝手の良い仕組みにすることが大切。

#### **（組織・会議体について）**

- ・原子力部門戦略会議のような会議体は、「船頭多くして舟山に登る」となりがちなので注意が必要。
- ・組織改正で課長の管理する要員数を改善した結果、部長と課長のコミュニケーションが弱くなる、組織横断的な連携が不活発になる、各課がタコつぼ化するなどの弊害にも注意が必要。

#### **4. 閉会あいさつ**

荻田原子力強化プロジェクト長より、積極的な意見・提言へ感謝するとともに、引き続きの協力を依頼した。

以上